

アドレスデータ転送ツール

取扱説明書

2003.10

Ver 1.11

コニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社

はじめに

アドレスデータ転送ツールは、Konica Sitos シリーズ コピー本体の Scan To Email アドレス帳を編集するためのソフトウェアです。

既存のコピー本体の Scan To Email アドレス帳を読み取り、Active Directory などの LDAP サーバーからのデータや、電子メールソフトからの CSV ファイルのアドレスデータをインポートでき、さらに、編集を行った後に、コピーの Scan To Email のアドレス帳として、コピーに対してエクスポート(転送)することができます。

アドレスデータ転送ツール操作説明書

目次

はじめに.....	2
第 1 章 クイックマニュアル - こんなときにはどうするの？	4
Microsoft OutlookExpress / Windowsのアドレス帳を取り込みたい。.....	6
Active Directoryのデータを取り込みたい。.....	6
コピーのアドレスブックを、他のコピーに転送したい。.....	7
注意:.....	7
各機種種の制限事項一覧表.....	7
第 2 章 準備	8
2-1 必要な環境について.....	8
2-1-1 対応OS.....	8
2-1-2 対応ハードウェア.....	8
2-2 対応機種種について.....	8
2-3 インストールの前に: ADSIのインストール(Windows 2000, XPは不要).....	9
2-4 インストールとアンインストール.....	9
2-4-1 インストールする。.....	9
2-4-2 アンインストールする.....	9
2-5 本体のネットワークとの接続と確認.....	9
第 3 章 起動と終了	10
3-1 起動する.....	10
3-2 終了する.....	10

第 4 章 画面の説明	11
4-1 メニュー.....	11
4-1 画面.....	12
第 5 章 コピヤ本体のアドレス帳を読み込む。	13
第 6 章 仮想コピヤアドレス帳に、LDAPサーバーのデータをインポートする。	15
注意：LDAPサーバーの認証に関して.....	16
第 7 章 仮想コピヤアドレス帳に、CSVファイルのデータをインポートする。	17
第 8 章 仮想コピヤアドレス帳を編集する。	19
第 9 章 コピヤ本体に仮想コピヤアドレス帳を送信し、更新する。	22
第 10 章 その他、便利な機能。	24
10-1 仮想コピヤアドレス帳のファイルへの保存と読み込み。.....	24
10-2 Webユーティリティとの連携.....	24
第 11 章 注意事項	26
11-1 データの上書きについて.....	26
11-2 コピヤ本体への書き込み結果の表示について.....	26
11-3 コピヤ本体の動作中の、データの読み書きについて.....	26
11-4 機種ごとの制限事項について.....	27
第 11 章 補足：ADSIのインストールについて	29

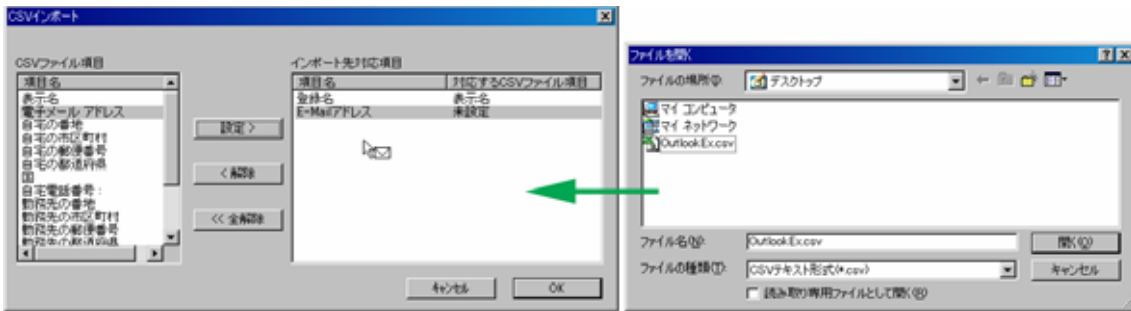
第 1 章 クイックマニュアル - こんなときにはどうするの？

この章は、代表的な作業について、操作の手順を簡単に説明しています。とりあえず使ってみたい方や、一応の操作をマスターしたあとに、あとで操作手順を概略参照したい方に、便利なように書かれています。

詳細な説明が必要な方には、次章以降から、読み始めてください。

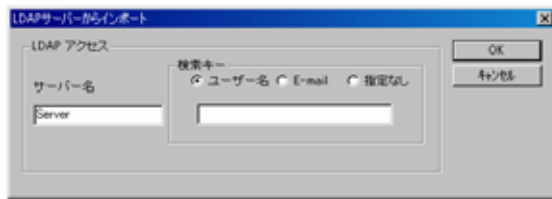
Version 1.10 以降では、Sitios 7145, 8050 に対応しました。

操作を始める前に、対象となる機種名をメイン画面から選択してください。

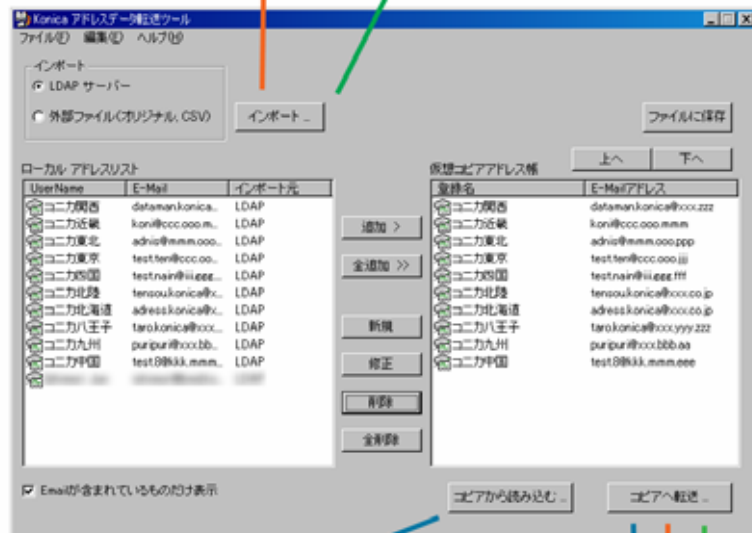


【図3】

【図2】



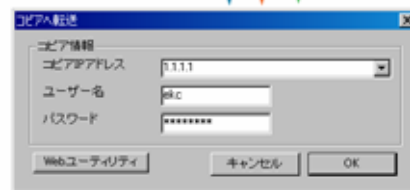
【図4】



【図1】



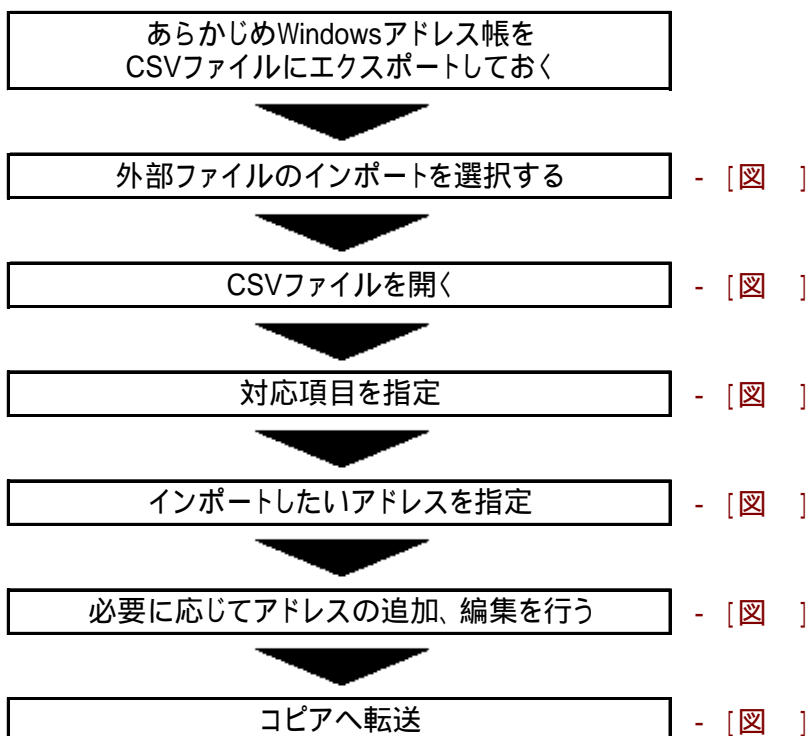
【図5】



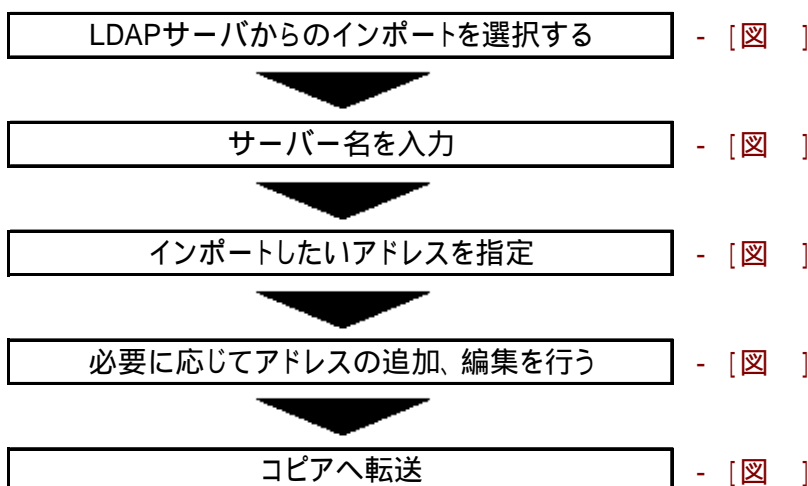
【図6】

- Outlook や Windows のアドレス帳を取り込みたい
- Active Directory のデータを取り込みたい
- コピヤのアドレスブックを他のコピヤへ転送する

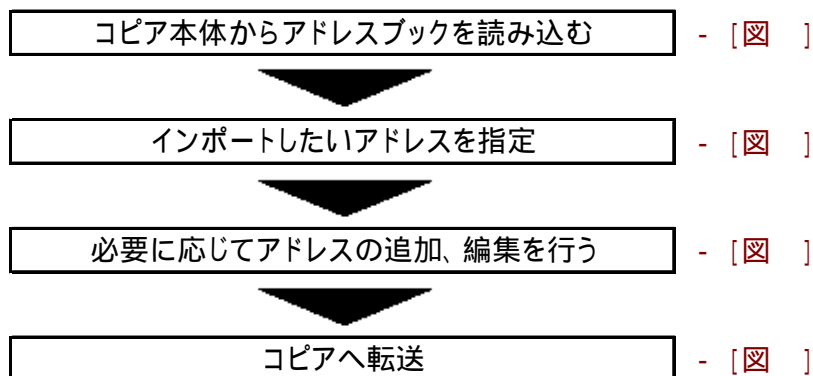
Microsoft OutlookExpress / Windows のアドレス帳を取り込みたい。



Active Directory のデータを取り込みたい。



コピーのアドレスブックを、他のコピーに転送したい。



注意：

転送によりコピー本体のアドレス帳は上書きされます。

既にコピーにデータを登録済みの場合は、最初に、コピー本体から登録済みのアドレス帳を読み込むことをお勧めします。

[各機種 of 制限事項一覧表](#)

ここをクリックして、各機種の制限事項を参照してください。

第 2 章 準備

この章では、アドレスデータ転送ツールを使って、コピー本体のアドレス帳を編集できるようになるまでの準備について説明しています。

2-1 必要な環境について

アドレスデータ転送ツールをインストールして使用するには、下記の環境が必要です。

2-1-1 対応 OS

Microsoft Windows 98 (本マニュアルでは、Windows 98 と記載します。)

Microsoft Windows Millennium Edition(本マニュアルでは、Windows Me と記載します。)

Microsoft Windows NT 4.0(本マニュアルでは、Windows NT と記載します。)

Microsoft Windows 2000(本マニュアルでは、Windows 2000 と記載します。)

Microsoft Windows XP Professional Edition(本マニュアルでは、Windows XP と記載します。)

なお、上記 OS に Internet Explorer 5.5 SP2 以降がインストールされていること。

2-1-2 対応ハードウェア

上記 OS が動作する IBM PC 互換機

上記 OS が動作する環境に加え：

30MB 以上の空き容量のあるハードディスク

800x600 ドット以上 256 色以上のディスプレイ

2-2 対応機種について

現在、サポートしてるコピー本体は、以下のとおりです。

- Sitios 7145
- Sitios 7155
- Sitios 7165
- Sitios 7085
- Sitios 8050

なお、本体のソフトウェアバージョンによって対応していない場合があります。
詳しくは担当のサービス管理店にお問い合わせ下さい。

2-3 インストールの前に：ADSI のインストール(Windows 2000, XP は不要)

本ソフトウェアは、Microsoft の Active Directory Service Interfaces 2.5(以下 ADSI) を使用します。**Windows 98, Windows Me, Windows NT をご使用の方は、本ソフトウェアのインストールの前に、ADSI をインストールしてください。**

ADSI は、Microsoft の Web サイトにおいて無料でダウンロードできます。

Windows 2000 および Windows XP をご使用の方は、ADSI のインストールは不要です。これら OS では、ADSI は標準でサポートされています。

ADSI のインストール方法は、第 11 章 補足：ADSI のインストールについて をご覧下さい。

2-4 インストールとアンインストール

2-4-1 インストールする。

1) Windows を起動します。

Windows NT、Windows 2000、Windows XP の場合は、管理者権限でログインしてください。

2) 提供されたプログラムの中から、「Setup.exe」をダブルクリックして、インストーラを起動してください。

3) 画面にしたがって、インストールを実行します。

2-4-2 アンインストールする

1) アドレスデータ転送ツールを終了します。

2) タスクバーのスタートボタンから、「コントロールパネル」を開きます。

3) 「アプリケーションの追加と削除」を選択し、実行します。

4) 「アプリケーションの追加と削除」で、「Konica アドレスデータ転送ツール」を選択し、「変更と削除」を実行します。

5) 画面にしたがって、アンインストールを進めます。

6) 削除が完了したメッセージが出たら、アンインストール完了です。

2-5 本体のネットワークとの接続と確認

1) 接続と IP アドレス設定

本アプリケーションを使って、Sitos 7155/7165/7185 コピアの Scan To Email アドレス帳を操作するには、コピア本体のネットワークポートのネットワーク設定と接続が必要です。接続および

設定に関しては、コピー本体の取扱説明書をご覧ください。

注意: コピー本体のネットワークポートは、プリントコントローラのネットワークポートと同一ではありません。それぞれの設定と、接続を確認してください。

2) Web ユーティリティの確認

接続が完了したら、設定したコピー本体の IP アドレスを、ブラウザに入力し、Web ユーティリティが動作するか確認してください。

次に、本体の Web ユーティリティ上で、[環境設定] – [設定データのインポート/エクスポート] が可能かどうかを確認してください。

「設定データのインポート/エクスポート」が表示されない場合は、本体のソフトウェアのバージョンアップが必要です。詳しくは担当のサービス管理店にお問い合わせ下さい。

Web ユーティリティに関しては、コピー本体の取扱説明書をご覧ください。

第 3 章 起動と終了

3-1 起動する

タスクバーの [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム(P)] [Konica アドレスデータ転送ツール] [Konica アドレスデータ転送ツール] の順に選びます。

デスクトップにショートカットアイコンを置かれている場合には、[Konica アドレスデータ転送ツール] アイコンをクリックすることにより画面が開きます。

3-2 終了する

Konica アドレスデータ転送ツールを終了するときは、[ファイル] メニューの [終了] を選びます。

第4章 画面の説明

4-1 メニュー



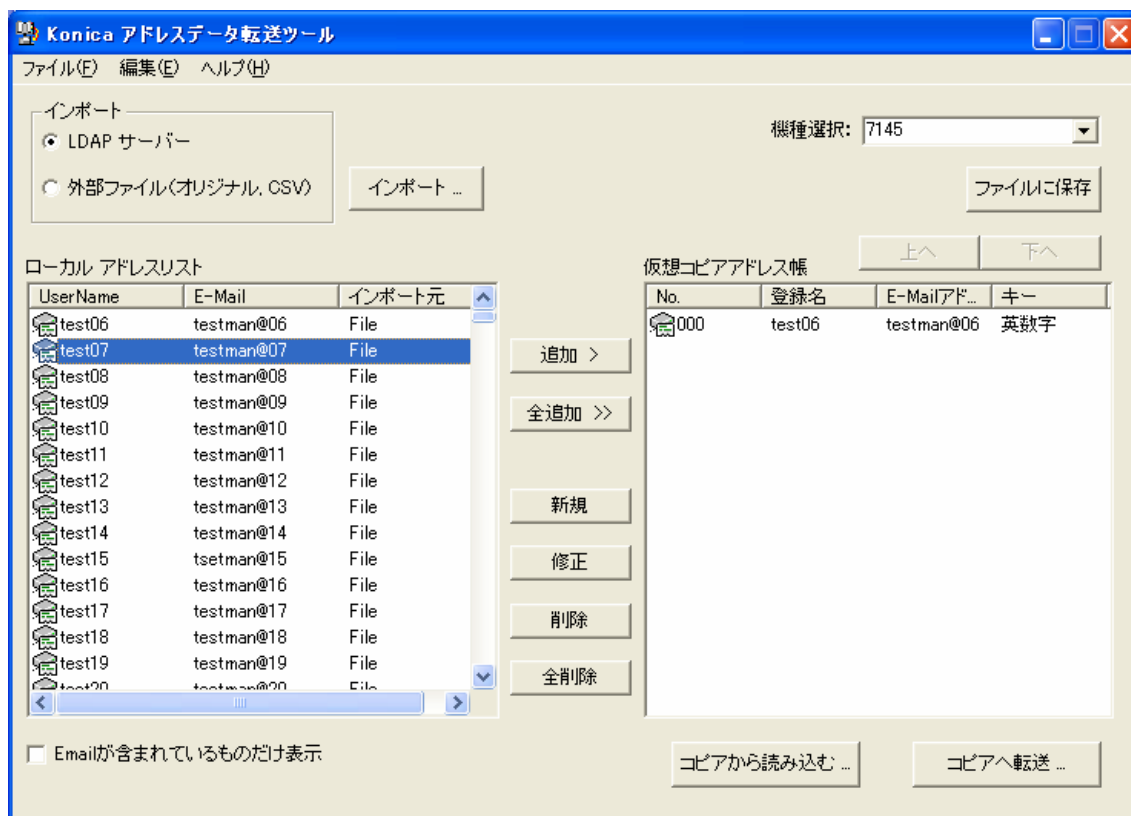
メニューには次の機能があります

ファイル(F)	
インポート:LDAP	LDAPサーバからアドレスデータをインポートします。
インポート:ファイル	既存のCSVファイル、またはファイル保存したアドレスブックを開きます。
ファイルへ保存 ...	アドレスデータ転送ツールのアドレスブックをファイルとして保存します。
コピーから読み込み	コピー本体からアドレスブックを読み込みます。
コピーへ転送	コピー本体に仮想アドレスブックを送信します。
終了	Konica アドレスデータ転送ツールを終了します。
編集(E)	
アドレス帳へ追加	ローカルアドレスリストから仮想コピーアドレス帳へ1件、追加します。
アドレス帳へ全部追加	ローカルアドレスリストから仮想コピーアドレス帳へ全て追加します。
新規	仮想コピーアドレス帳へ新しい宛先を作成します。
修正	仮想コピーアドレス帳の宛先を修正します。
削除	仮想コピーアドレス帳の宛先を1件、削除します。
全削除	仮想コピーアドレス帳の宛先を全て削除します。
ヘルプ(H)	
バージョン情報	バージョン情報を表示します。

4-1 画面

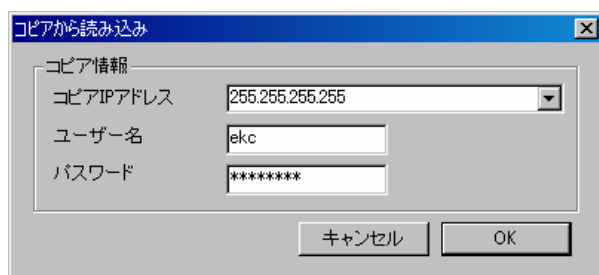
起動時に表示される画面が、メインとなる操作を行う画面です。ここで、様々な操作を行います。それぞれの詳細機能については、次章以降で説明します。

全ての操作の前に、対象となる機種名を選択してください。



第 5 章 コピア本体のアドレス帳を読み込む。

- 1) メニューバーの[ファイル(F)]から[コピアから読み込み]を選択する。もしくは、[コピアから読み込む ...]ボタンをクリックします。
- 2) コピア IP アドレス、ユーザー名、パスワードを入力して OK ボタンをクリックします。

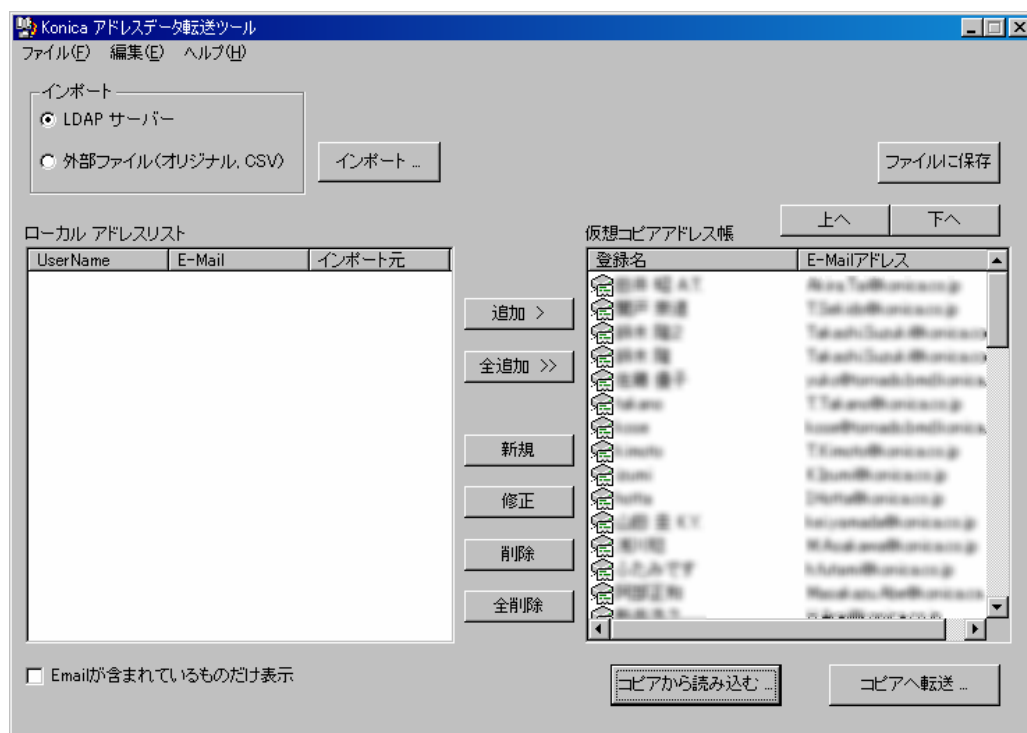


コピア IP アドレスは、コピア本体に設定した IP アドレスを入力してください。

ユーザー名は ekc と入力してください。(7145 は入力不要です)

パスワードは、コピア本体での EKC マスターキーコード (7145 は 4 桁、その他は 8 桁) です。これは、本体の[キーオペレータモード] – [EKC設定] で使用するものです。EKC マスターキーコードの詳細については、サービス管理店にお問い合わせください。

3) コピヤから正しく読み込まれると[仮想コピヤアドレス帳]に読み込んだデータが表示されます。

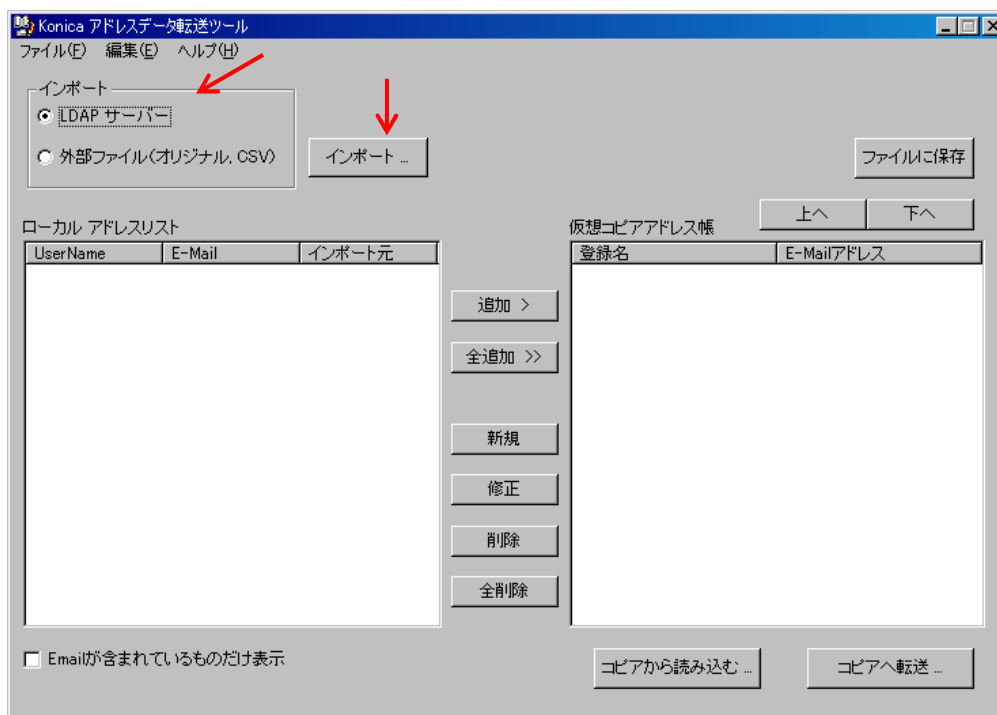


4) コピヤから、正しくデータが読み込めない場合は、エラーとなります。

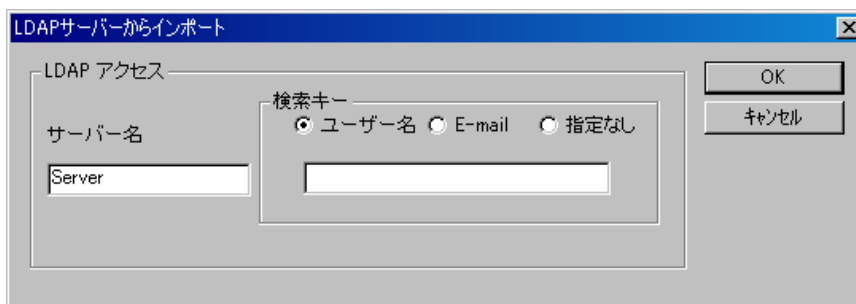
原因として、IP アドレスあるいはユーザー名、パスワードの入力ミスや、コピヤ本体が動作中の場合が考えられます。入力を確認するか、コピヤ本体の動作がアイドル状態になってから、再度、読み込みを行ってください。

第6章 仮想コピアアドレス帳に、LDAP サーバーのデータをインポートする。

- 1) メニューバーの[ファイル(F)]から[インポート:LDAP]を選択する。もしくは、[LDAP サーバー]にチェックを入れて[インポート ...]ボタンをクリックします。



- 2) サーバー名(必要であれば検索キー欄を入力)を入力し、OK ボタンをクリックします。

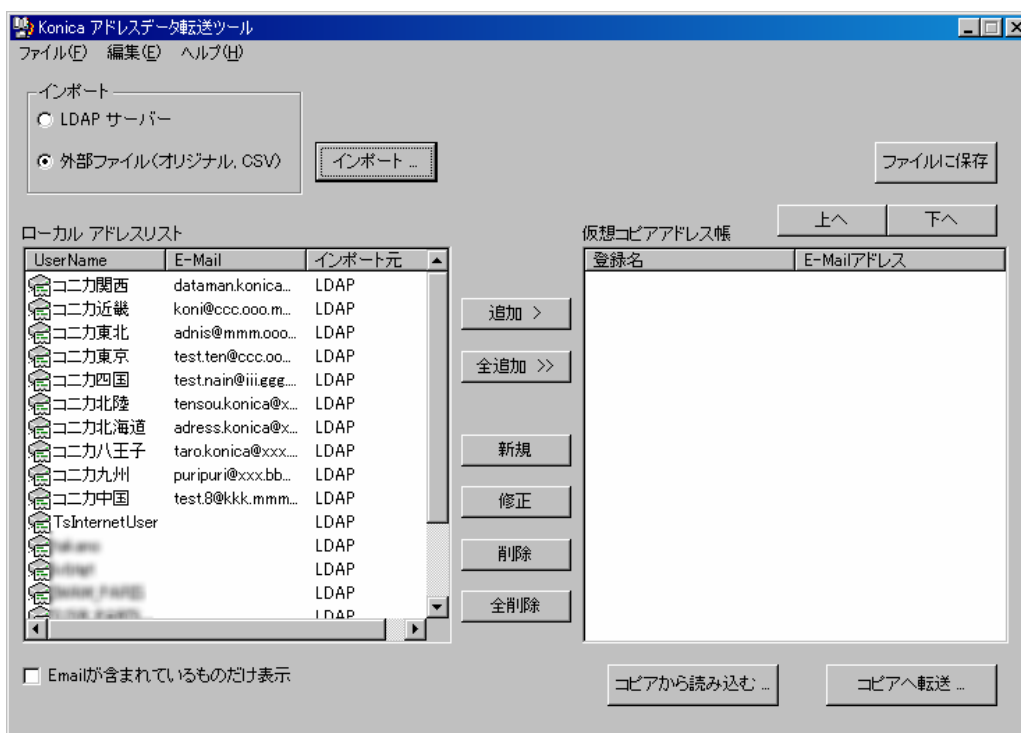


たとえば、ユーザー名に t を含むものだけを読み込みたいときには、ユーザー名のラジオボタンを選択し、テキストボックスに t を入力します。

3) サーバー名の誤りや、サーバーに対してアクセス権のない場合には、下記のエラーメッセージが表示され、ローカルアドレスリストには表示されません。サーバー名やアクセス権を確認してください。



4) ローカルアドレスリストにデータが表示されれば完了です。以降は、第 8 章 仮想コピーアドレス帳を編集する を参照してください。



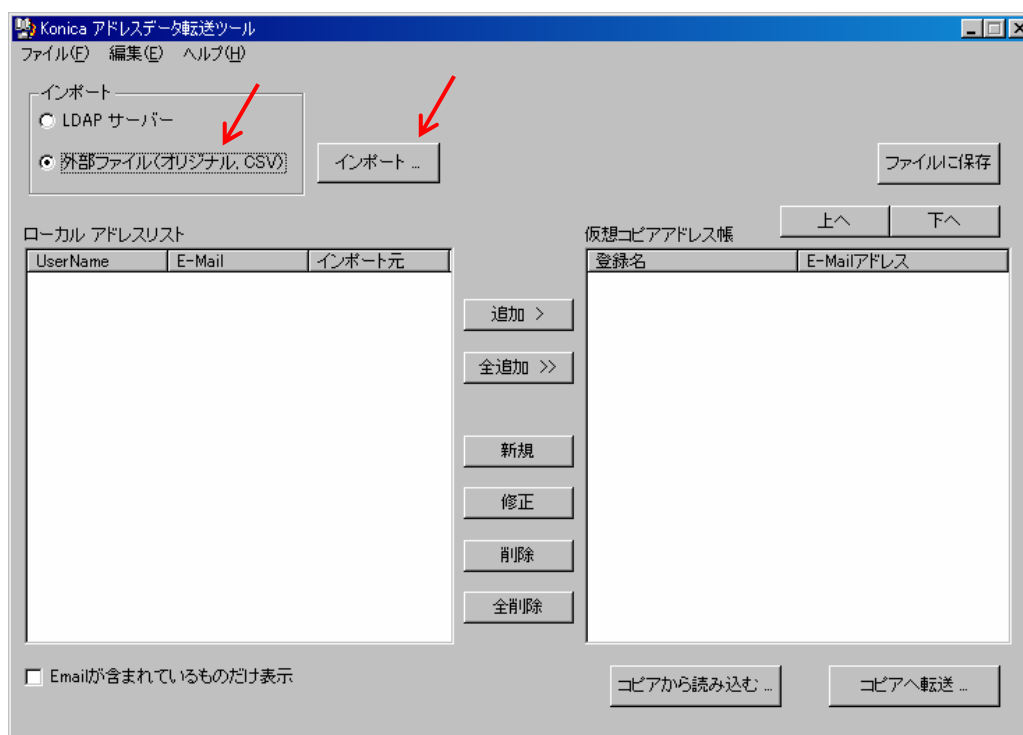
注意：LDAP サーバーの認証に関して

アドレスデータ転送ツールから LDAP サーバーのアクセスの際に行う認証については、それを実行している Windows のユーザー権限が使われます。

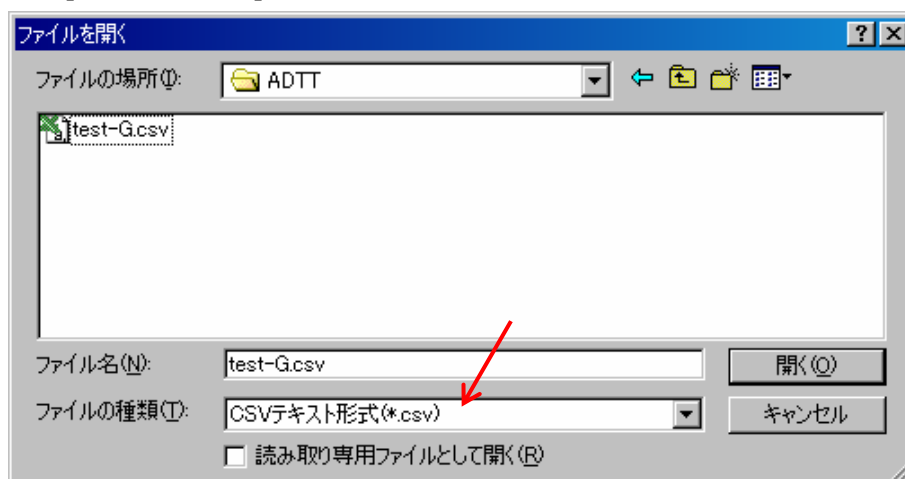
したがって、LDAP サーバーにアクセスするためには、LDAP サーバーの情報にアクセスできる権限で Windows にログオンする必要があります。

第 7 章 仮想コピーアドレス帳に、CSV ファイルのデータをインポートする。

- 1) メニューバーの[ファイル(F)]から[インポート:ファイル]を選択します。もしくは、[外部ファイル(オリジナル、CSV)]にチェックを入れ、[インポート ...]ボタンをクリックします。



- 2) インポートする CSV ファイルを選択して[開く]をクリックします。
[ファイルの種類]を CSV テキスト形式に変更する必要があります。



3) CSV テキストに記載されている項目名で必要な項目を[インポート先対応項目]に追加します。

左側のリストボックスには、読み込んだ CSV ファイルの先頭行のデータ(一般的には、項目名を表す)を、表示します。

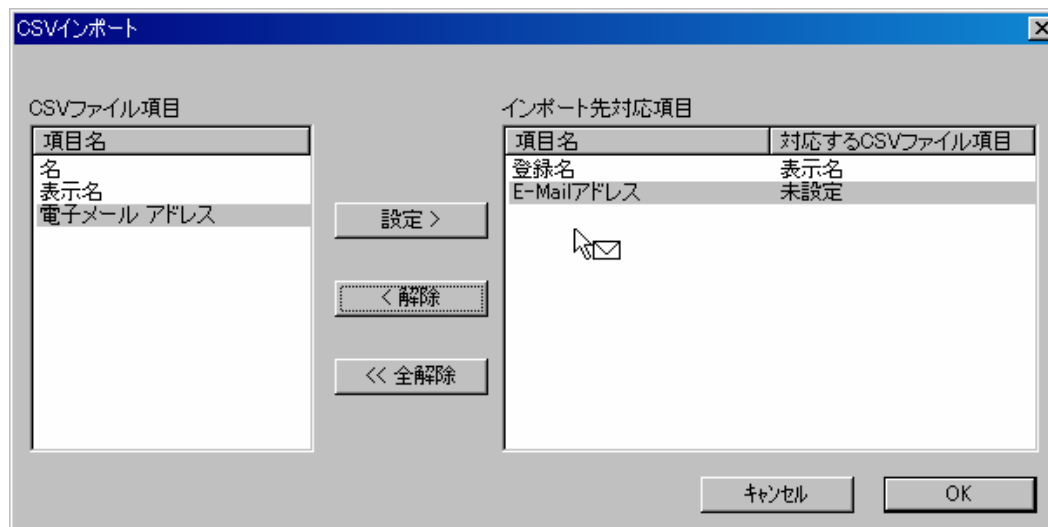
右側のリストボックスには、コピアドレス帳の「登録名」と、「E-Mail アドレス」を表示します。

このダイアログボックスでは、コピアドレス帳の「登録名」もしくは「E-Mail アドレス」に、CSV ファイルのどの項目を対応付けるかを指示するものです。

例では CSV ファイルの[電子メールアドレス]をコピアドレス帳の[E-Mail アドレス]に対応させたいので、それぞれのリストボックス上で[電子メールアドレス]、[E-Mail アドレス]を選択した後に、[設定 >] ボタンをクリックしています。

また、ドラッグ&ドロップで追加することもできます。

関連付けを取り消したい場合は項目名を選択し、[< 解除] ボタンもしくは[<< 全解除] ボタンをクリックすることで取り消されます。



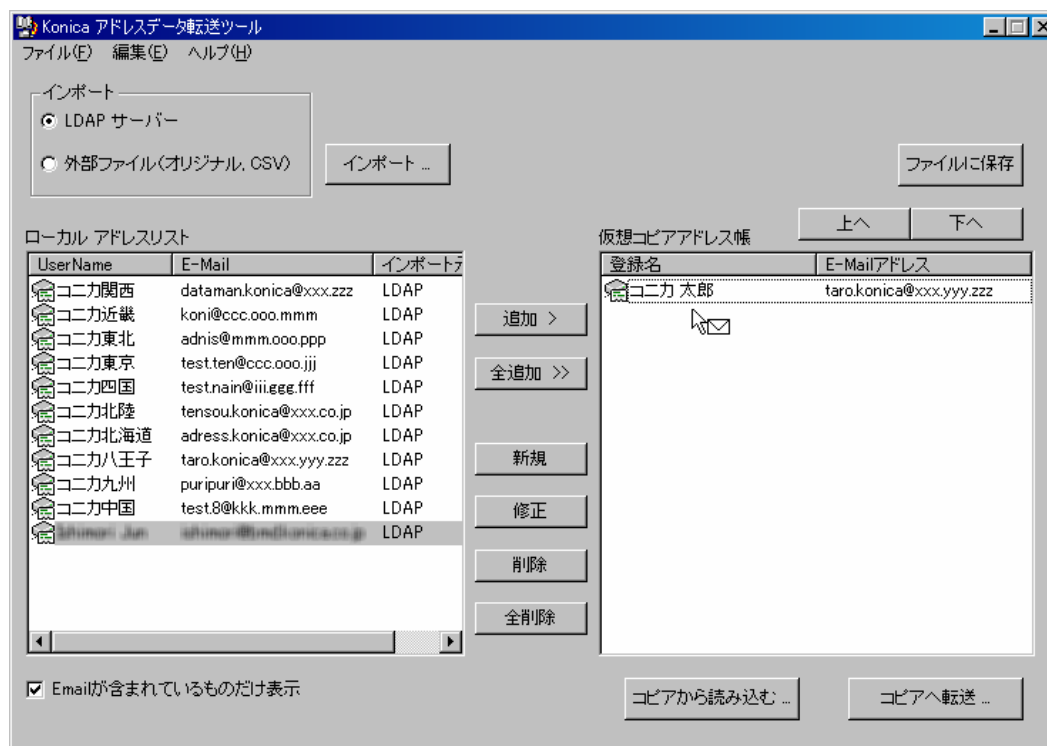
[OK]をクリックするとローカルアドレスリストに表示されます。

以降は、第 6 章 仮想コピアドレス帳を編集する を参照してください。

第 8 章 仮想コピアドレス帳を編集する。

1) 1 件アドレスを追加する。

ローカルアドレスリストからデータを 1 件選択した後、メニューバーの[編集(E)]から[アドレス帳へ追加]を選択するか[追加 >]ボタンをクリックします。



ローカルアドレスリストからデータをドラッグ&ドロップすることで追加することもできます。

2) 全てのアドレスを追加する。

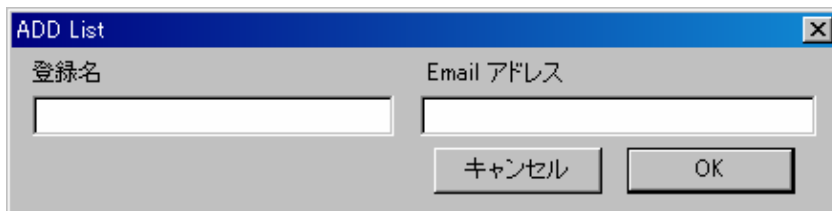
メニューバーの[編集(E)]から[アドレス帳へ全部追加]を選択するか[全追加 >>]ボタンをクリックします。

すでに登録されているデータや Email アドレスが含まれていないデータを追加しようとするエラーメッセージが表示されます。この場合は、エラーとなるデータは追加されません。



3) 仮想コピーアドレス帳に新規に登録する。

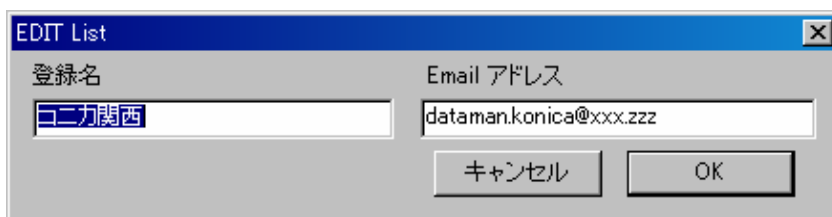
メニューバーの[編集(E)]から[新規]を選択します。もしくは[新規]ボタンをクリックします。または、仮想コピーアドレス帳での右クリックによる登録も可能です。



登録名、Email アドレスを入力し[OK]をクリックすると追加されます。

4) 登録した仮想コピーアドレス帳を修正する。

メニューバーの[編集(E)]から[修正]を選択します。もしくは[修正]ボタンをクリックします。または、仮想コピーアドレス帳の中から、編集したいアドレスをダブルクリック、もしくは、右クリックによる指定もできます。

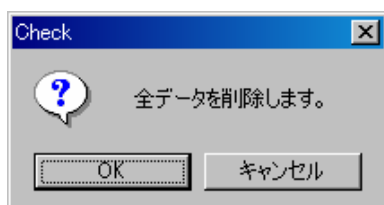


5) 仮想コピーアドレス帳から 1 件削除する。

削除するデータをクリックし、メニューバーの[編集(E)]から[削除]を選択する。もしくは[削除]ボタンをクリックします。または、仮想コピーアドレス帳での右クリックによる削除も可能です。

6) 仮想コピーアドレス帳に登録したアドレスを全て削除する。

メニューバーの[編集(E)]から[全削除]を選択する。もしくは[全削除]ボタンをクリックします。



確認ダイアログで、[OK]をクリックすると全て削除されます。

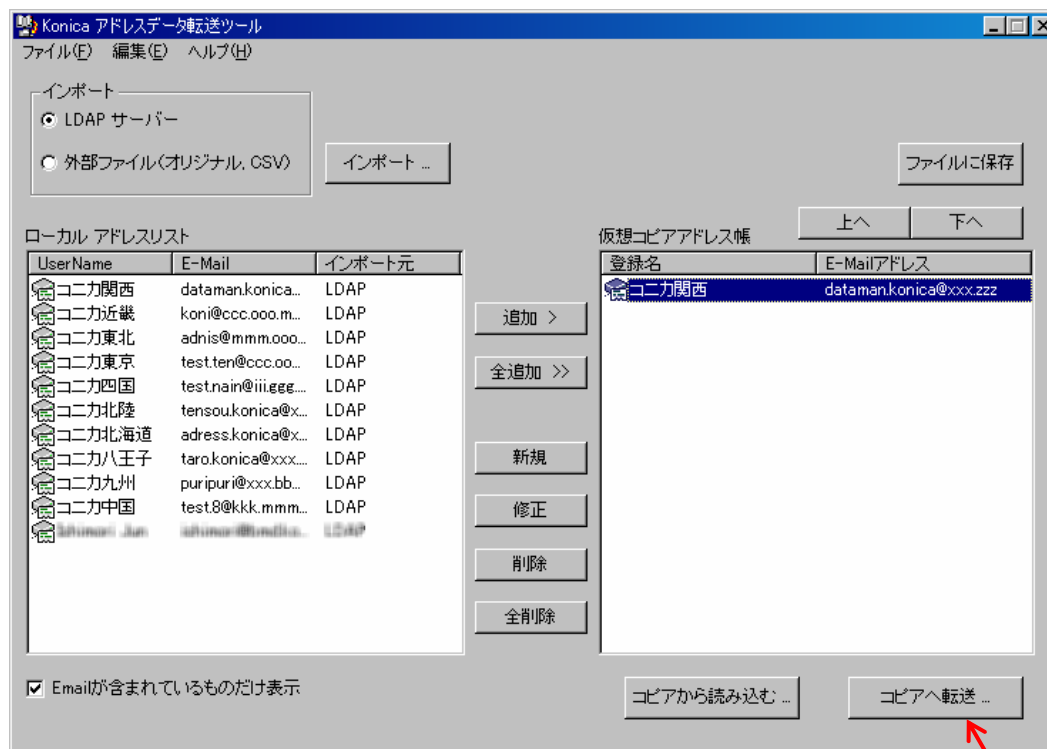
7) 仮想コピーアドレス帳のデータ順番を入れ替える。

メニューバーの[編集(E)]から[上へ移動]あるいは[下へ移動]を選択する。もしくは[上へ]ボタンか[下へ]ボタンをクリックします。

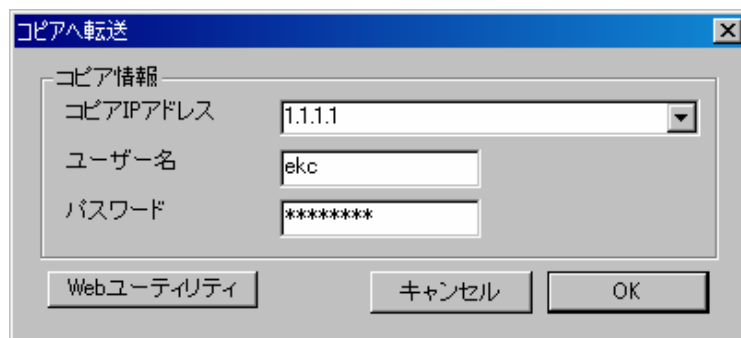
また、仮想コピーアドレス帳のリストボックスタイトルをクリックすることで、登録名 / E-Mail アドレスの昇順・降順に並び替えることも出来ます。

第 9 章 コピー本体に仮想コピーアドレス帳を送信し、更新する。

- 1) 仮想コピーアドレス帳にあるデータを選択し、メニューバーの[ファイル(F)]から[コピーへ転送]を選択する。もしくは、[コピーへ転送 ...]ボタンをクリックします。



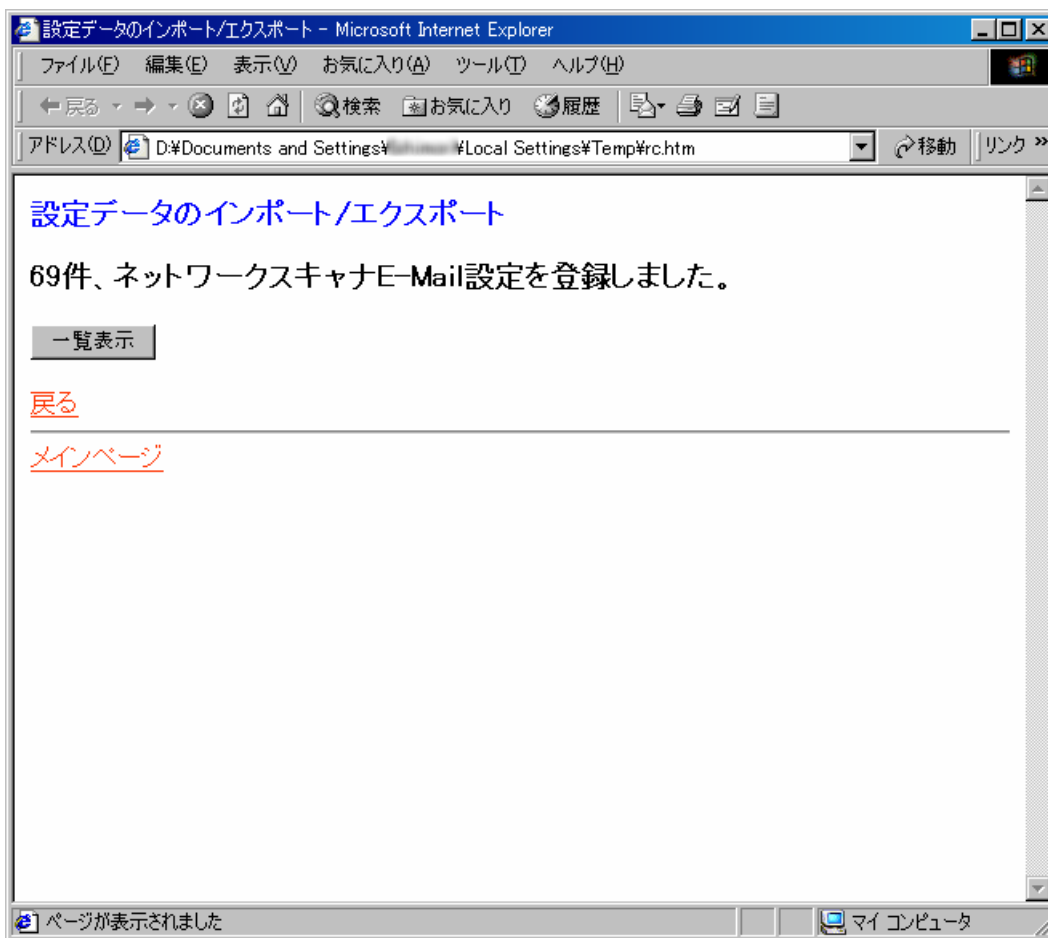
- 2) コピー IP アドレス、ユーザー名、パスワードを入力して OK をクリックします。
 コピー IP アドレスは、コピー本体に設定した IP アドレスを入力してください。
 ユーザー名は ekc と入力してください。(7145 は入力不要です)
 パスワードは、コピー本体での EKC マスターキーコード(7145 は 4 桁、その他は 8 桁)です。これは、本体の[キーオペレータモード] [EKC 設定] で使用するものです。EKC マスターキーコードの詳細については、サービス管理店にお問い合わせください。



このダイアログボックスで[Web ユーティリティ]をクリックすると、入力された IP アドレスの Web ユーティリティを Web ブラウザで表示します。

既存データの確認などに便利です。

3) 転送後の結果は、Web ブラウザで表示します。

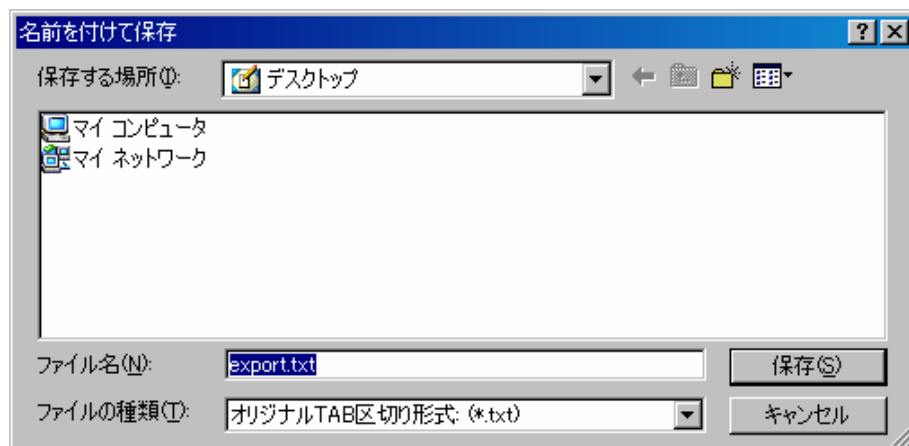


エラーメッセージが表示される場合は、IP アドレスあるいはユーザー名、パスワードの入力ミスや、コピア本体が動作中の場合が考えられます。入力を確認するか、コピア本体の動作がアイドル状態になってから、再度、転送を行ってください。

第 10 章 その他、便利な機能。

10-1 仮想コピアドレス帳のファイルへの保存と読み込み。

- 1)仮想コピアドレス帳に登録したデータを保存するにはメニューバーの[ファイル(F)]から[ファイルへ保存 ...]を選択する。もしくは、[ファイルに保存]ボタンをクリックします。

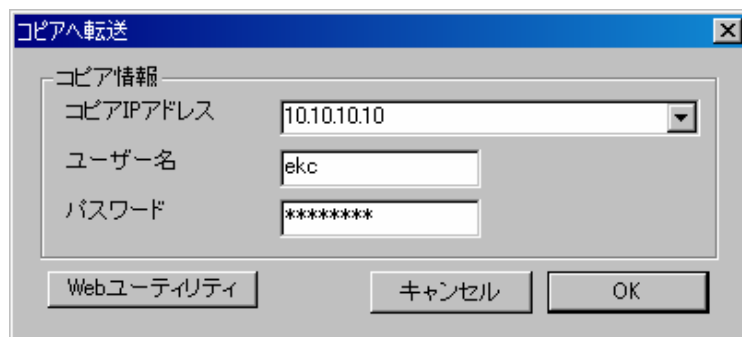


- 2) ファイル保存したデータを読み込む場合には、メニューバーの[ファイル(F)]から[インポート:ファイル]を選択します。もしくは、[外部ファイル(オリジナル、CSV)]にチェックを入れ、[インポート ...]ボタンをクリックします。

その後、1)で保存した[* .txt]ファイルを読み込みます。データは、ローカルアドレスリストに表示されます。

10-2 Web ユーティリティとの連携

- 1) 第 9 章で行ったデータを送信する際に、Web ユーティリティと連携することができます。

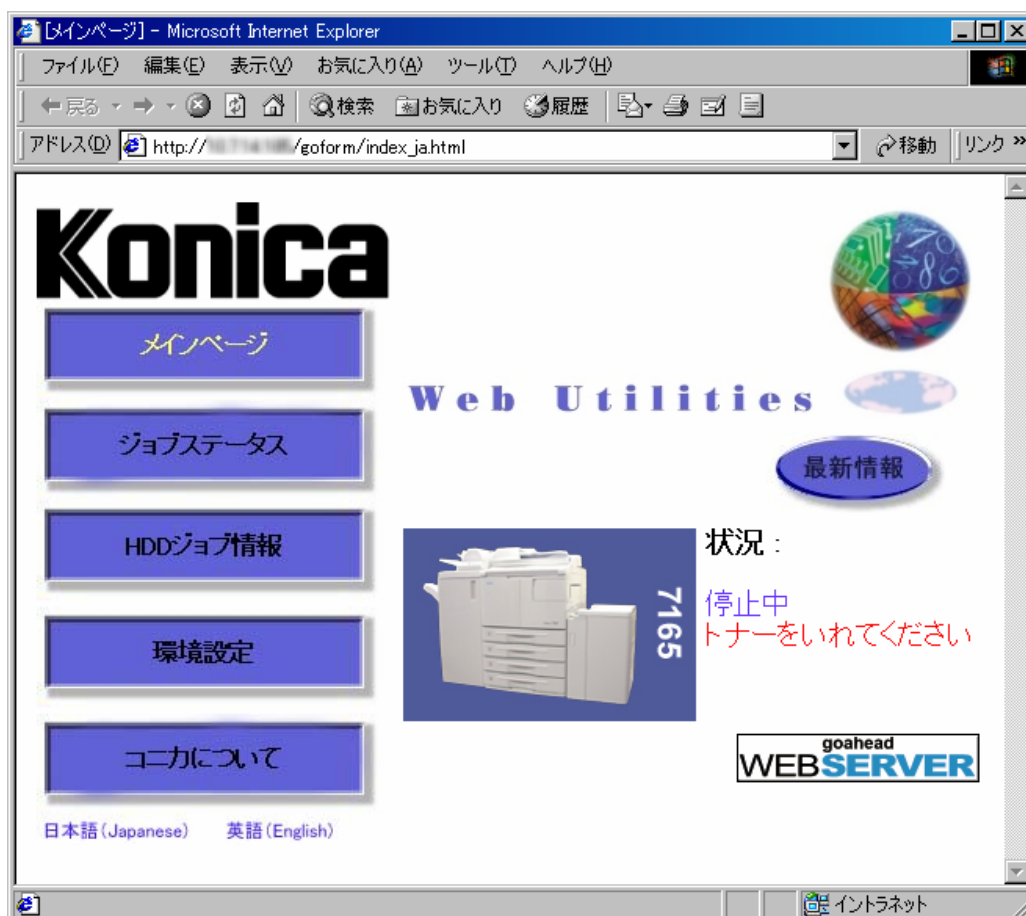


2) Web ユーティリティが表示されます。

この機能を使えば、入力したIPアドレスが、正しくコピア本体のIPアドレスであるかがわかります。

また、登録済みの本体コピアアドレス帳の内容の閲覧、または、バックアップなどを行うことが出来ます。

もし、Web ブラウザでエラーの表示がされる場合は、入力されたIPアドレスが正しいかどうかをご確認下さい。



第 11 章 注意事項

11-1 データの上書きについて

コピー本体に仮想コピーアドレス帳を送信すると、既存のコピー本体のアドレス帳は上書きされません。既存のデータを残したい場合は、あらかじめ、アドレスデータ転送ツールに、コピー本体から読み込んだ後に編集を行ってください。

11-2 コピー本体への書き込み結果の表示について

コピー本体への書き込み結果は、Web ブラウザで表示していますが、その表示されたボタンや文字の、他のページへのリンクは切れています。内容を確認したら、それらをクリックせずに、Web ブラウザのウィンドウを閉じるようにしてください。

11-3 コピー本体の動作中の、データの読み書きについて

コピー本体の印刷中およびスキャン中は、コピー本体のアドレス帳のデータの読み書きは出来ません。

コピー本体の印刷中およびスキャン中に、アドレスデータ転送ツールで読み書きを行うとエラーとなります。このときは、本体の動作が停止するのを待ってから、再度、試みてください。

11-4 機種ごとの制限事項について

登録できる件数や、文字コードに関して、コピー本体では下記の制限があります。アドレスデータ転送ツールでは、コピー本体の制限を越えた登録を行うとエラーとなります。その場合には、制限内の登録内容に修正した後に、再度、登録を行ってください。

コピー本体の制限は、下記のとおりです。

機種名		7155/7165		7085		
画像制御 ROM バージョン(*1)		50	52 以降	30	40	41 以降
登録件数上限		96 件	96 件	96 件	96 件	96 件
[登録名] 内容制限	最大登録文字数.()は全角文字の場合	18文字 (9文字)	18文字 (9文字)	18文字 (9文字)	18文字 (9文字)	18文字 (9文字)
	漢字コード	第 1 水準のみ可能	第 1/第 2 水準可能	第 1 水準のみ可能	第 1 水準のみ可能	第 1/第 2 水準可能
	文字間のスペース登録	可能	可能	可能	不可能	可能
[E-mail アドレス] 内容制限	最大登録文字数。(英数字・記号のみ)	60文字	60文字	60文字	60文字	60文字

機種名		8050	7145
画像制御 ROM バージョン(*1)		20	20
登録件数上限		450 件	400 件
[登録名] 内容制限	最大登録文字数.()は全角文字の場合	18 文字 (9 文字)	24 文字 (12 文字)
	漢字コード	第 1 水準のみ可能	第 1/第 2 水準可能
	文字間のスペース登録	可能	可能
[E-mail アドレス] 内容制限	最大登録文字数。(英数字・記号のみ)	64 文字	60 文字

(*1) ROM バージョンの確認に関しては、担当のサービス管理店にご相談下さい。

第 11 章 補足：ADSI のインストールについて

本ソフトウェアは、Microsoft の Active Directory Service Interfaces 2.5(以下 ADSI) を使用します。**Windows 98, Windows Me, Windows NT をご使用の方は、本ソフトウェアのインストールの前に、ADSI をインストールしてください。**

ADSI は、Microsoft の Web サイトにおいて無料でダウンロードできます。

Windows 2000 および Windows XP をご使用の方は、ADSI のインストールは不要です。これら OS では、ADSI は標準でサポートされています。

--- ADSI インストール手順 ---

1) ADSI の入手

Microsoft の Web サイトから、ADSI をダウンロードします。

URL は、下記です。

<http://www.microsoft.com/ntserver/nts/downloads/other/ADSI25/default.asp>

対応する OS と、対応する言語が一致するものを選択し、ダウンロードします。対応する OS とダウンロードするファイルの対応については、下記をご参照下さい。

・Windows 98 の場合

→ [Download Active Directory Services Interfaces 2.5 for Windows 98 \(Japanese Language Version\)](#)

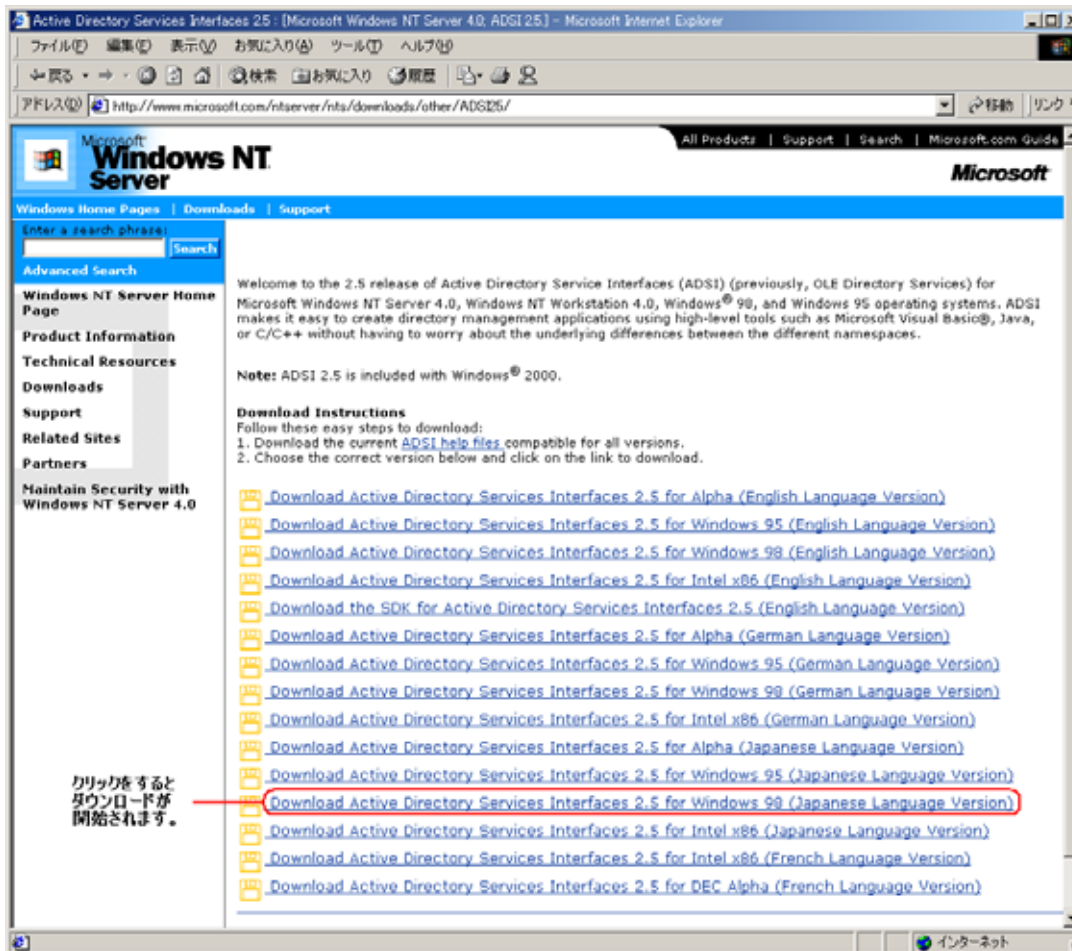
・Windows Me の場合

→ [Download Active Directory Services Interfaces 2.5 for Windows 98 \(Japanese Language Version\)](#)

・Windows NT4.0 の場合

→ [Download Active Directory Services Interfaces 2.5 for Intel x86 \(Japanese Language Version\)](#)

図 1 ADSI のダウンロード (Windows 98 の場合) :



2) ADSI のインストーラを起動する。

ダウンロードしたファイルを、ダブルクリックし、インストールします。

3) 画面にしたがって、インストールを実行する。

図2 インストール確認のダイアログ：内容を確認し、インストール続ける場合は「はい」を選択します。

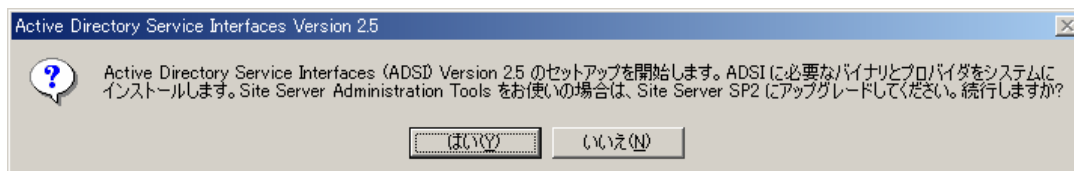
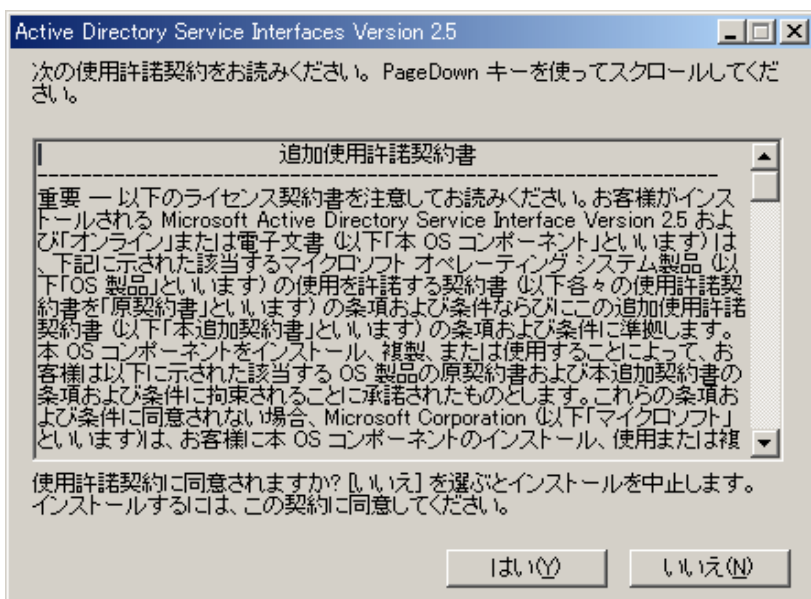


図3 使用許諾契約のダイアログ：内容を確認し、インストール続ける場合は「はい」を選択します。



つづけて、ファイルのコピーが始まります。

4) インストール完了

図4 インストール完了のダイアログ：インストールが終了すると表示されます。「OK」を選択して、インストールを完了してください。



以上で、ADSI のインストールは完了です。